

PaLaNA 通信 #13

これまで、この PaLaNA 通信欄には、アメリカ病理医協会（CAP）が行う外部精度評価プログラムが我が国に導入されそのサーベイ終了後に配布していた総評と題する簡単な分析結果や診断病理に係る諸々の事柄をエッセイ風にまとめた文章を CAP サーベイ日本事務局（株式会社 CGI）の許可を得て掲載していました。

今まで、CAP サーベイ日本事務局では、この米国のプログラムを安価に提供できるように年2回の形に変更し、日本語に翻訳された解説書付きの J-PIP として提供することで、日本病理学会の病理専門医資格更新の単位として認められ続けてきていました。不幸なことに、日本病理学会認定から日本専門医機構認定の病理専門医資格更新に変更された際、生涯教育単位としての認定が得られなくなってしまっていたのです。否、誤って認定が得られなかったと認識されていたのです。この間に参加者数が減少し、米国の為替変動並びに解説書翻訳にかかる費用の高騰で、廃刊の危機に瀕することとなりました。しかし、この度、この措置が誤りであることが判明し、日本専門医機構認定病理専門医資格更新単位として1単位（学術業績・診療以外の活動実績（学術集会等参加に該当））が認められることが確認されたのです。そこで、低価格化と利便性が得られる手段として、翻訳、印刷・製本、配布を止め、on-line での提供を中心とする方法へと脱皮することにしました。この措置がなされる前のアンケート調査では、若い病理医はバーチャルスライドでの検索に慣れている、移動中でも病理画像を閲覧したり解説書を読むなどの作業ができる方が良い、少々の英語であれば翻訳は必要としないし、今はグーグル翻訳に掛ければすぐに翻訳できる、世界における自分の立ち位置が知れるのはありがたい、などのご意見を頂いていました。

これらを背景として、PIP が日本専門医機構認定病理専門医資格更新単位取得認定プログラムとして再確認された今、CAP 日本事務局（株式会社 CGI）では J-PIP については 2023 年春をもって廃止とし、通常の英語版（PIP 組織標本スライド版 / PIPW デジタル画像版）での運用として継続すべきである、英語対応での混乱を避けるため CAP 日本事務局（株式会社 CGI）のサポートにより申し込みができるようにする、必要な CAP Website の eLAB Solution のログイン方式等の日本語資料の準備と今まで通りのガラス標本希望者への配布をおこなうこととするとの結論に達したと聞いています。

いずれにしても、このような経緯で長い翻訳業の仕事が終わりました。これで、筆者は総評の執筆作業からも解放されるようになったのですが、エッセイだけはなんとかこの PaLaNA 通信欄で発信し続けてはとの声を頂きました。そこで、不定期となるかも知れませんが、次回からいろいろなテーマで書かせて頂こうと考えています。